



ベテランの皆さん。鼻緒も編んで、もうすぐ完成

地域の無事を願う大わらじが、今年も完成 大久保地区に伝わる「鬼の金剛」

悪病退散を願う「鬼の金剛」が3月4日、大瀬・大久保地区の薬師堂で行われました。旧暦の1月16日に実施される地域の伝統行事で、大きなわらじを集落の入り口につるして災いの進入を防ぎます。住民らは慣れた手つきでわらを編み、約3時間かけて完成させました。宮本昌明さん(90)は「上等な出来栄え。今年もみんなが元気に過ごせますように」とほほ笑みました。



「今はつくっても、明日は変えられる」と松村さん

人権教育は、自身の内面をのぞく鏡を持つこと 誰もが自分らしく生きる社会を目指す学びの場

「内子町人権・同和教育研究大会」が3月7日、文化交流センタースバルで開かれました。内子中学校生と小田分校人権委員会の発表の後、みえ人権教育・啓発研究会の松村智広さんが登壇。学校教諭時代の経験、結婚差別、足が不自由になって感じたことなどを幅広く取り上げ、「差別に気付ける知識、正せる想像力と共感性が必要。誰かと乗り越えることは、必ずできる」と語りました。



寄付金を贈った中野華綾さん(左)と、前委員長の^{みずき}大野瑞季さん

ささやかでも、誰かの力に 内子中エコ委員会が内子町社協へ寄付

内子中学校エコ委員の生徒が3月9日、内子町社会福祉協議会へ寄付金10,019円を贈りました。同委員会は毎年、校内でアルミ缶の回収を行い、収益金を被災地や社会福祉法人などへ寄付しています。委員長の中野華綾さんは「少しでも誰かの力になれば。みんなにも募金に関心を持ってほしい」と話しました。寄付金は高齢者サロンなど、町内の地域福祉活動に活用されます。



蒸したもち米と芋ペーストを^{からうす}唐臼でつく作業を実演

青年農業者×中学生×お母さん団体 農地再生・担い手育成へ商品開発プロジェクト

内子町青年農業者協議会と内子中学校総合文化・科学部、内子アグリベンチャー21による「いももち販売会」が3月14日、道の駅からりて開かれました。材料には同協議会と中学生が遊休農地で育てたサツマイモを使用しています。当日は生産と加工に携わった三者が集まり、実演販売。山本瑛毅智さん(五十崎中2年)は「作って売っての楽しさ、大変さを知れた」と汗をぬぐいました。

創作を続ける地域の先輩に学ぶ 内子中で「石ころアート」写真を展示

石を並べて絵を描く「石ころアート」の写真が、2月10日から約1カ月間、内子中学校で展示されました。制作者は同校卒業生の森岡修一さん。約12年間で完成した1,500点以上を取めたアルバムを展示し「誰でも自由に作れるのが魅力」と解説しました。作品に触れた同校美術部の生徒は「素材の美しさが生きている」「自分も想像の幅を広げたい」と刺激を受けていました。



左_生徒に解説する森岡さん 右_手掛けた作品のひとつ

中学校部活動の競技力アップへ 元五輪アスリート・佐伯美香さんが直接指導

「指導者派遣事業」が全3回、町内中学生を対象に行われました。2月21日は五十崎体育館で、松山市出身の元バレーボール選手・佐伯美香さんがバレーボール部に実技指導。トスやアタックを実演し「ボールとの距離感を大切に」とアドバイスを送りました。佐伯さんは「いいプレーをする、声を出す、という意識をしっかり持って。もっと楽しくなるから」と呼びかけました。



生徒のアタック練習を見守る佐伯さん(中央)

全国大会で優れた成績を収めた2人を表彰 感謝を胸に、さらなる高みへ――

「内子町がんばる子ども応援事業優秀者賞」の表彰式が2月27日、内子町役場で開かれました。受賞者は「第49回ピティナ・ピアノコンペティション」銀賞の本田ひまりさん(内子中1年)ら2人。「第60回全日本高等学校男子ソフトボール選手権大会」準優勝の船本烈風さん(東温高1年)は「目標は日本一。壁は高いけれど、応援してくれる家族や地域への感謝を結果で返したい」と話しました。



小野植正久町長から2人へ賞状と盾が贈られた

直したり譲ったり、ごみ削減のヒントいろいろ 「MOTTAINAI Fes」を初開催

ごみを減らす取り組みを身近に感じてもらうと、「MOTTAINAI Fes」が2月28日、MORITEI(旧森家住宅)で開かれました。割れた器を修理する金継ぎワークショップや、フリーマーケットなどを実施。飲食物販売によるごみ削減のため、エコバッグやマイボトル持参も呼びかけました。企画した地域おこし協力隊の石井寛子さんは「エコの意識や関心を深めるきっかけになれば」と笑顔でした。



海洋プラスチックごみを使ったキーホルダー作りも